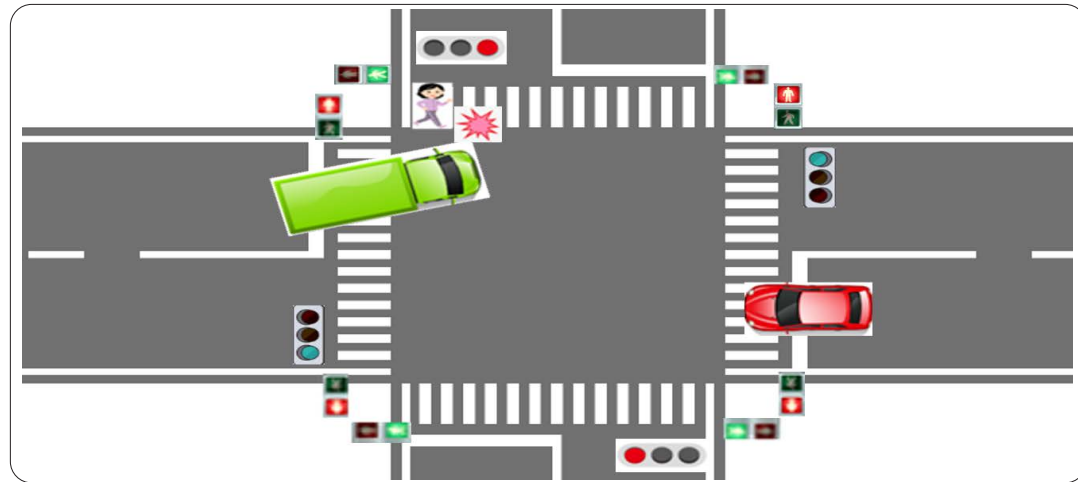


職場における交通安全指導

Part 133

交差点を左折する際、横断歩道を横断中の歩行者と衝突



■事故の概要

- 事故の当事者
 当事者A（大型貨物車）：55歳、男性
 被害者B（歩行者）：30歳、女性
- 被害状況
 A：左側面擦過
 B：重傷（左上腕骨折、頭部挫傷）
- 道路状況
 片側一車線の信号機のある十字路交差点

事故状況

運転者であるAは、大型トラック乗務経験が25年のベテランドライバーで、無事故無違反で運転に従事し、社内で信頼の厚い模範ドライバーであった。

当日は、疲労を感じながらも、早朝から配送センターで食品等を積み込み、スーパーなどに配送していた。

配送もあと2店舗で終了となることで安心し、緊張感は切れてしまい、蓄積した疲労も重なり運転に集中できない状態であった。

事故が発生した場所は片側一車線の県道の見通しの良い交差点であった。

Aが交差点に差し掛かると、対面信号機は赤色のため停止線の先頭で左折の合図を出して自車を停車させた。

しかし、Aは対面信号機が青色に変わり横断歩行者の有無を確認することもなく、急いで左折を開始したところ、左側から横断歩道を横断してきた歩行者Bをはね飛ばしてしまった。

AはBの存在に衝突するまで全く気付いておらず、疲労の蓄積と焦りから、漫然と自車を進行させ、横断歩行者を未発見で衝突した。

事故の原因

この事故の原因は、Aが交差点を左折する際、交差点周囲の安全確認を確実にすることなく、ただ漫然と左折したことです。

Aは疲労の蓄積による体調不良や先急ぎの心理で、ゆとりある運転が疎かになって歩行者の存在に気付かず、冷静な判断ができないヒューマンエラー（人間のミス）が招いた事故と考えられます。

安全指導

1. 交差点事故の防止

当組合の2022年度の交通事故発生状況を見ますと、対人事故が343件発生し、このうち139件（40.5%）は交差点及びその付近での発生でした。

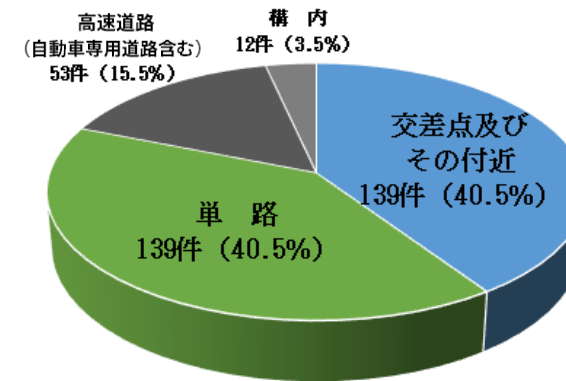
また、交差点及びその付近（139件）の事故類型をみると、車両相互87件、車両単独1件、交通弱者51件（歩行者15件、自転車25件、二輪車11件）となっています。

このように交差点及びその付近は、事故多発地帯です。特に重大事故に繋がりがやすい交通弱者との事故が発生しやすい場所であることを良く認識し、安全確認を確実にする必要があります。

◆2022年度交差点事故発生状況

衝突物	対人（総件数343件中）			
	件数	発生割合	前年度比	増減比
交通弱者	51	14.9%	4	8.5%
車両相互	87	25.4%	17	24.3%
車両単独	1	0.3%	1	—
合計	139	40.5%	22	18.8%

◆道路形状別事故発生状況



道路形状別では、単路とともに交差点及びその付近が全体の約4割を占めています。

2. コメンタリー(呼称)運転の実践

交差点の右左折時は横断歩行者等の交通弱者に注意を払い、コメンタリー（呼称）運転を実践し、交差点事故の根絶に努めなければなりません。

また、運転者の心理状態が不安定だと注意が散漫となり運転に与える影響が大きくなるので運転に集中した基本動作を徹底しましょう。

事故防止のポイント

1. 過労運転の防止

トラックドライバーは、他の産業に比べ「拘束時間が長い」労働環境に置かれています。運転は、正しい判断と運転操作が必要とされ精神的な疲労も大きいため、肉体的・精神的疲労が重なると、注意力や思考力が鈍り反応時間に遅れが生じ、漫然運転や居眠り運転を招きます。

そこで、日常生活で健康管理を怠らないことはもちろん、次のことを習慣にして、過労運転の防止に努めましょう。

- (1)十分な睡眠をとる。
 (6～7時間の連続した睡眠)
- (2)日頃から身体を動かし健康を保つ。
- (3)ストレスなどをためないようにする。
- (4)定期的に健康診断を受診する。

2. 心身の健康管理

事故発生の原因となる心理的要因について気をつけるべき点として

- (1)「先急ぎ」や「焦り」の心理
 配送の時間に遅れてしまっているという「急」や「焦り」の気持ちが出ると安全確認が疎かになり事故を起こす危険性が高まります。
- (2)「心理的要因の対応策」
 - ①常に最悪の事態を想定し、強引な運転をしたい気持ちを抑え、余裕のある運転行動に心がける。
 - ②一度事故を起こすと、被害者はもちろんのこと、会社や家族にまで迷惑をかけるということを常に意識し慎重な運転を心がけましょう。

特に渋滞時における「焦りの心理」は、何時でも何処でも渋滞が起こりうることを念頭に置き、自分を客観的に見つめることができるよう習慣づける必要があります。

ドライバーは、以上のことを日々の運転業務に反映させるとともに、広範囲に亘っての目配りや気配りが大事であることを念頭に置き、常に危険を予測した運転の励行に努めてください。